

水稲栽培こよみ

肥料・農薬・資材はJAで

目標	良い苗を作る	早く分けつさせる	無効分けつ防止	良い穂を作る	実りをよくする	土づくり											
育苗の過程	(稚苗栽培)	播種	田植	田植後一週間	田植後二週間	有効分けつ期	最終分けつ期	出穂35日前	出穂18日前(幼穂約1cm)	出穂18日前(20)	穂ばらみ期	出穂7日前	出穂期	落水期	成熟期		
主要品種別生育月日の参考目安	あきたこまち	3/25	4/15	4/22	4/29	5/17	5/26	6/11	6/11	7/1	7/8	8/6	8/13				
田植が5日前後すると出穂、成熟期はおおむね2日差がでる	コシヒカリ	4/1	4/21	4/28	5/5	5/26	6/13	6/30	6/30	7/10	7/17	8/15	8/22				
	キヌヒカリ	4/11	5/1	5/8	5/15	6/8	6/20	7/5	7/5	7/18	7/25	8/22	8/29				
	みえのゆめ	4/11	5/1	5/8	5/15	6/10	6/26	7/13	7/13	7/25	8/1	9/4	9/11				
作業メモ	()	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
水管理	※健苗育成 育苗時に水をやりすぎない	田植直後は深水で、種いたみ防止	5cm	浅水で活着をよくし分けつ促進	3cm	間断かん水で根の健全化をはかる	間断かん水	間断かん水	間断かん水	間断かん水	間断かん水	間断かん水	間断かん水	間断かん水	間断かん水	間断かん水	
主な作業とその要点		播種 土すきをする 育苗時、ムレ苗防止 種子消毒の徹底 灌水の徹底 更新種子の利用	田植 3本×4本 栽種密度 30cm×21cm 5018、6021株坪	害虫、葉いもち予防剤の育苗箱施用	除草剤散布(発処理剤)	後期除草剤散布(出穂35日前まで) 中干しの徹底(葉数18本に)	葉いもち防除 更新向上資材の施用	第一回追肥 出穂20日前(キヌヒカリ)	第二回追肥 出穂7日前	穂いもち、紋枯病防除	第一回穂肥 出穂7日前	ウツカ カメムシ 紋枯病 穂いもち 防除	落水は収穫前7日以降とし、早期落水をしなさい	収穫 籾粉が3/4粒残っている程度	水分で26%剪定を刈取	生わらの早期すき込み	土肥材散布と秋起し

種子は毎年全量更新しましょう。
栽培履歴を記載し「食の安全・安心」を守りましょう。

4. 水稲施肥基準(例)(10a当り) “品質・食味の向上は土づくりから”

肥料	10a当り:施肥量(kg(袋数))	施肥時期
土肥	珪力燐(粒) 200kg(10袋)	9月~2月
	農力アップ(粒) 100kg(5袋)	9月~2月
標準基準	あきたこまち・キヌヒカリ みえのゆめ	オール14号化成
	ベスト田植機用 ネオベスト1号	30kg
登熟向上	ソイルサブリエキス	4L
	けい酸加里プレミアム34(粒)	30~40kg(1.5~2袋)
	マルチサポート1号	20~40kg(1~2袋)
穂肥	NK化成4号	第1回 20kg 第2回 10kg
	グッド18045	20kg
		20~30kg
基肥	コシヒカリ セラコート R845	40kg
	コシヒカリ セラコート R822	40kg
	コシヒカリ けい酸加里セラコート R860	40kg
一発	コシヒカリ・キヌヒカリ 軽量らくだ君(15kg袋)	コシヒカリ 25~30kg キヌヒカリ 35~40kg
	あきたこまち セラコート R592	35~40kg
	キヌヒカリ エムコート022	40~50kg
	みえのゆめ エムコート489	50kg

※側条施肥田植機の場合、基肥の施肥量を20~30%減らして下さい。
※穂肥は出穂直前の施肥や出穂後の実肥はタンパク含量を高め、食味を著しく損ないますので施肥しないで下さい。
※この施肥設計を参考にして、各自水田の土壌条件・慣行施肥・稲の生育等を十分検討の上、天候を考慮して施肥して下さい。
※転作(大豆、小麦等)跡圃場については、基肥窒素の施肥量を30~50%減らして下さい。

農薬は使用法・安全使用基準を必ず守り、周辺に飛散しないように使用しましょう。

1. 育苗の要点(稚苗) “健苗が豊作の第一歩”

種子更新	品質向上のため毎年全量種子更新をする。
塩水選	水20ℓに、食塩4kg(うち、2kg(もち)で行い、よく水洗いをする。
種子消毒	＜浸漬処理＞ テクリドC 100cc(ばか苗前、もみ枯細菌病) 混用 水20ℓに、スミチオン乳剤 20cc(イネシガレセンチュウ) 10℃以上の水温で24時間、上記混用液で浸漬する。(特に風乾する必要はない) ＜温湯殺菌処理＞ 農業を使用せず、温湯により処理する方法です。尚、処理方法につきましては、最寄りの支店までご相談ください。※浸漬処理や温湯殺菌処理の他に塗布処理でも可能です。
種籾の浸種	10℃~15℃の水...10日~12日 低温時の浸種は十分にします。※1~2回水かえをする。
種籾の催芽	育苗器で、30~32℃でハト胸程度(1日程度)。
床土準備	くみあい粒状育苗培土(クリーン2号) 10a当り4袋 1箱当り3~4kg
播種	ハト胸催芽初1箱当り160g(1.6合)~180g(1.8合)以内とし、うす播きをする。
病害防除	苗立枯苗: タチガレエスM液剤・500倍液、1箱当り500cc(播種時)。 かび: ダコレート水和剤・500倍液、1箱当り500cc(播種時~播種14日後まで)。 ムレ苗防止: フジワラ粒剤、1箱当り50g(緑化始期)。
温度管理	出芽期 (2~3日) 30~32℃で発芽をそろえる。 緑化期 (3日) 昼温20~25℃、夜温15~20℃で苗の姿勢を決める。 硬化期 (15日) 昼温15~20℃、夜温10~15℃十分に換気し、葉のたれない苗をつくる。かん水は午前中に行い、夕方に表面が乾く程度とする。

※種子消毒や浸漬等の廃液は、河川や排水等に流さず適正に処理して下さい。

2. 除草剤散布 “水管理で除草効果は決まる”

薬剤	剤名	内容	散布時期
播種時	モグトン 粒剤	3kg	最速期
	エンペラー1号 粒剤	1kg	最速期
	ベンケイ1号 粒剤	1kg	最速期
	トップガンR1号 粒剤	1kg	最速期
	クワエボン1号 粒剤	1kg	最速期
	天空1号 粒剤	1kg	最速期
	銀河1号 粒剤	1kg	最速期
	スラッシュ粒剤	3kg	最速期
	エンペラー豆つぶ250	250g	最速期
	プライオリティフロアブル	500ml	最速期
田植時	天空フロアブル	500ml	最速期
	エーワンジャンボ	300g	最速期
	エンペラージャンボ	250g	最速期
	トップガンRジャンボ	250g	最速期
	クワエボンジャンボ	400g	最速期
	天空ジャンボ	300g	最速期
	アルファプロジャンボ	250g	最速期
	銀河ジャンボ	400g	最速期
	エリジャン乳剤	300ml	最速期
	サキドリE	500ml	最速期
中後期	マッシュアップ1号 粒剤	1kg	最速期
	ウィドコア1号 粒剤	1kg	最速期
	レラス1号 粒剤	1kg	最速期
	レラスジャンボ	400g	最速期
	エーワンジャンボ	300g	最速期
	エンペラージャンボ	250g	最速期
	トップガンRジャンボ	250g	最速期
	クワエボンジャンボ	400g	最速期
	天空ジャンボ	300g	最速期
	アルファプロジャンボ	250g	最速期

※上表の印は除草剤の登録内容を記載しており、ご使用にあたっては 登録期印の最速期でのご使用をお奨めします。

項目	農薬名	適用剤名	使用時期	10a当り使用量	使用回数	本剤の使用回数
ヒエ対策	ヒエクリーン豆つぶ250	ノビエ	移穂後15日~ノビエ4葉期(但し、収穫45日前まで)	250g	1回	1回
	ワシツチャーE/W	ノビエ	移穂後20日~ノビエ6葉期(但し、収穫30日前まで)	100ml	2回以内	2回以内
雑草対策	グラスシート	一年生雑草及び多年生雑草	移穂後10日~10cm以内の雑草	300~500ml	50~100回	雑草発生期
	ワシツチャーE/W	一年生雑草	移穂後10日~10cm以内の雑草	100ml	50回以内	雑草発生期
雑草対策	マッシュアップ1号	一年生雑草	移穂後10日~10cm以内の雑草	1,000ml	50回	雑草発生期

3. 病虫害防除 “出てあわてるよりも 先ず先制の予防対策”

区分	病虫害名	農薬名	施用量(10a当り)	本剤の使用回数	使用時期	備考
箱施用剤	いもち病、白葉枯病、ウツカ類、イネドク、ヨコバイ他	ツインターボ箱粒剤08		1回	播種前	*育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。
	いもち病、イネミズ、イネドク、ウツカ類、ヨコバイ、メイチュウ他	CSオリゼリディア箱粒剤	50g/1箱	1回	移穂3日前~移穂当日	*育苗箱の苗の上から均一に散布する。 *茎葉の薬剤は払い落とすこと。
	いもち病、紋枯病、イネミズ、イネドク	CSオリゼリディアEV箱粒剤		1回	移穂7日前~移穂当日	*いもち病常発地帯は必ず施用してください。
本田施用剤	いもち病	サンプラス粒剤【予防効果】	3~4kg	1回	出穂5日前まで 但し、収穫30日前まで	*特に予防に心がける。
	いもち病	コラトップ豆つぶ【予防効果】	250g	2回以内	初発10日前~初発時 穂いもち: 出穂30日前~5日前まで	*散布後4~5日間は灌水状態を保つ。
	いもち病	ブラシ粉DL【予防・治療効果】	3~4kg	2回以内	いもち病の初発時 収穫7日前まで	
	いもち病、紋枯病	オリブライ豆つぶ【予防・治療効果】	250g	1回	出穂10日前まで 但し、収穫45日前まで	*散布後4~5日間は灌水状態を保つ。
	いもち病、白葉枯病、ウツカ類、ヨコバイ、フタオビコヤガ他	ガッツスター粒剤【予防効果】	3kg	1回	出穂5日前まで 但し、収穫45日前まで	*散布後4~5日間は灌水状態を保つ。 *カメムシ類の散布時期の目安
中後期	いもち病、カメムシ類、ウツカ類、メイチュウ他	フジワラ粒剤【予防効果】	4kg	2回以内	収穫30日前まで	①イネクロカメムシ: 6月上旬 ②斑点米カメムシ: 出穂10日~5日前(穂ばらみ期)又は出穂5日~10日後(穂揃期)~多発時は出穂前後の2回散布
	いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウツカ類	ワイドパンチ豆つぶ【予防・治療効果】	250g	1回	収穫35日前まで	
	カメムシ類、ウツカ類、ヨコバイ	クラップ粒剤	3kg	2回以内	収穫14日前まで	

※農薬の登録内容は随時変更されることがありますので、下記のアドレスのホームページで検索することが出来ます。
農薬登録情報 http://www.jpnn.ne.jp/nouyaku/

乾燥・調製の要点

- 過乾燥の防止。仕上げ水分は14.5~15%を目標。(当地域の早期栽培は、乾燥終了後の余熱乾燥もあり仕上げ水分を高めに設定)
- 高温で急激な乾燥は避ける。平均の毎時乾燥率は0.8%を超えない。
- 自動水分計の精度は毎年始めにチェック。乾燥中もこまめに測定。
- 水分18%まで乾燥したら、数時間送風を止めムラを直し、その後乾燥再開。
- 調製は、粉温度が常温に戻ってから。(粉温が高いと糊摺り時の肌スレが多発)
- ゴムロール間隔は0.8~1.2mmが基準。脱臼率は80~85%を目標。
- ライスグレーダーの網目は1.85mm(L型)以上を使用。(整粒歩合80%以上とする)

環境に優しい農業の実践

水稲収穫後の稲わらは、土づくり(腐熟化促進)のために焼却せずに早期にすき込むか、又は畜産農家へ供給する等の対応をして下さい。
(台風時等に河川や海に流亡しポンプ場や排水路に詰まり、浸水の原因となったり、漁港に被害を与える危険性があります。)

白未熟粒軽減対策

- 登熟期の窒素栄養を高める
◎登熟期の窒素栄養が下がると白未熟粒が発生しやすくなります。
高温年では穂肥を多めに施用することが効果的です。
- 登熟期の高温対策
◎白未熟粒軽減対策として「水管理」が重要です。
穂揃い期までは灌水管理、登熟期間中は間断かん水を基本としながらも、できるだけ新鮮な水の供給を随時行うよう心がけましょう。

年間防除で被害軽減! ジャンボタニシ対策こよみ

活動期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ジャンボタニシ活動期間	冬眠(気温14℃以下)											
稲を食べる期間(田植後2~3週間)	地域に広まってしまったジャンボタニシを完全に駆除することはほぼ不可能です。被害を最小限に抑えるために、防除しましょう!											

稲が生育している時には! 大切な3つのポイント

- ①貝を水田に入れない
水口、水原に金網(1~2cmメッシュ)またはネット(9mm)を張る
- ②貝を増やさない
貝・ピンク色の卵塊を潰して、駆除する
- ③貝に稲を食べさせない
4cm以下の浅水管理を行う

冬季には! 耕うんして貝を潰す!

- ①トラクターの走行速度を遅くする
- ②回転数をできるだけ上げる
- ③深さは浅くても良い(5cm)

特に水口、畦畔付近は密度が高いので丁寧に!